



橋戸

令和7年10月31日

学校だより 第7号

練馬区立橋戸小学校

校長 青木俊一

読書活動から学芸会へ

校長 青木 俊一

先週末から「秋の読書推進月間」が始まりました。これは一般財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）が主催する、読書に親しむ機会をを広げ、読書習慣の促進を目的とする取組です。時を同じくして、本校でも昨日まで読書旬間を実施しました。期間中の取組を紹介します。

本校では、図書ボランティアとして有志の保護者の皆さんが活動してくださっています。期間中は、火曜日と木曜日の朝に各教室で読み聞かせをしてくださり、子供たちに大変好評でした。中には、お勤めの前に学校に立ち寄って活動してくださった方もいらっしゃいました。

図書委員会は、委員の児童一人一人がお薦めの本を、オンライン集会で紹介してくれました。未知のジャンルや新しい本に触れるよい機会となりました。

そして、教員からは「読書バイキング」です。事前に読み聞かせする本の題名と内容、会場となる教室を子供たちに知らせます。当日は聞きたい本を選んで教室移動し、日頃接点の少ない教員と、新しい本との出会いを楽しむ機会となりました。

読書から得られる効果には様々なものがあります。今月14日（金）・15日（土）に学芸会を控えていますが、この表現活動とも大きな関連性が考えられます。

物語を読むことで、場面を理解し、登場人物の感情や行動に至る思考の流れを想像することができるようになります。これによって他者の気持ちを想像し、共感する力が養われます。学芸会で役を演じる際は、役の立場に立った役作りに活かされ、演技の幅が広がる重要な要素になるはずです。また、様々な物語や登場人物に触れることは、自分と異なる考え方や捉え方をするとといった新たな価値観に触れることとなります。集団で一つの作品を作り上げる過程で様々な軋轢が生じたとしても、周囲の考えに耳を傾け、意見を尊重する協調性が生まれてくるでしょう。

このように、読書活動から学芸会へは多くの効果が期待できます。加えて、他者理解の意識が広がることで、協力してよりよい作品にしようとする気持ちをもつことができそうです。

現在、体育館はひな壇・大道具・音響設備・照明であふれています。練習も佳境に入ってまいりました。子供たちの成長した姿が、皆様にとって素敵な思い出となりますよう、ご来場を心よりお待ちしております。